

意見の概要

渡良瀬川は、平成23年から29年までの7年間のうち6ヶ年取水制限を実施し、農業用水の取水が不安定な状況にあります。渡良瀬川の流況に大きく影響する草木ダムは、渡良瀬川上流部の唯一のダムであること、他の利根川上流ダムと性質が異なり、雪融け水よりも雨水を貯水するダムであることや近年の現象である異状少雨と異状多雨に対応するため、利根川上流8ダムの中でも独立したダム運用の検討を願っています。

また、渡良瀬川沿岸地域の頭首工である太田頭首工周辺では、長い年月の間に土砂が溜まり中州の形状が変化してきております。河川内の堆積物は、農業用水の取水に影響を及ぼす他、洪水時の護岸の崩壊や堤防の浸食を招く恐れがあるますので、堤防の整備には、中州の土砂を有効活用していただきますようお願いいたします。